

概要

- 平成30年に当県で初めて確認されたサツマイモ基腐病は、令和3年には作付面積に対する本病の発生割合が**75%に上昇し**、大きな減収要因となった。
- このため、令和4年に「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」を策定し、**県・地域サツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム(PT)**を立ち上げ、関係機関・行政・研究・普及組織が一体となり、基腐病菌を圃場に、「**持ち込まない**」、「**増やさない**」、「**残さない**」の**3つの対策**の総合的な取組を推進した。
- その結果、令和5年には作付面積に対する本病の発生割合が**18%まで減少した**。

具体的な成果

1 基腐病対策アクションプログラムの策定とサツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム(PT)の立ち上げ

- 3つの対策の総合的な取組の推進
- 県PT・地域PTとの連携・調整を行い、具体的な取組支援と情報共有

2 防除技術開発支援と試験研究機関との調整

- 戦略的スマート農業技術等の研究事業への参画・支援による防除技術の確立
- 栽培管理時期(育苗期・本圃・栽培終了後)に合わせた防除技術の提供
 - ① 種いもの選抜・消毒技術確立
 - ② 栽培前半の体系防除の確立(R4)に続く栽培後半の体系防除の確立(R5)
 - ③ 収穫後の残さ分解促進技術



基腐病に強い品種の選定・導入
写真は「こないしん」

3 地域PTにおける防除対策の展示実証ほの取組支援

- 3つの対策を総合的に講じた展示ほの設置、取組支援
- 展示ほにおける実績取りまとめやその成果の普及
 - ① 抵抗性品種「こないしん」の面積拡大 **R4 1,500ha**
 - ② **薬剤による体系防除の効果確認**



基腐病対策研修会

4 生産現場への技術の周知と優良事例の共有化

- 県域の聞き取りによる発生推移調査(4～10月)
- PT会などの組織の活性化及び情報伝達の迅速化

以上の取組の結果、令和5年には作付面積に対する本病の発生割合が18%まで減少した。

普及指導員の活動

令和4年度～

- 県と各地域においてサツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、情報共有、展示
- 戦略的スマート農業技術等の研究事業への参画・支援と試験研究機関との調整により新技術の情報提供と情報共有を図る
- 展示実証ほの実績のとりまとめ支援と成果を生産現場へ周知し、生産者が段階的に技術を導入
- 県域の発生状況調査による現況のフィードバックを行い、早めの対策につなげる
- サツマイモ基腐病対策研修会や各地域PT会において、新技術の研修や生産者が取り組んでいる優良事例の発表を行い、情報の共有化を図る

普及指導員だからできたこと

- ・ 県内各地域の実情に合わせたPTの設置・運営と情報提供。
- ・ 試験研究への参画や調整により、成果を迅速に現場へ普及させることができた。
- ・ 基腐病の3ない対策の推進に加え、毎年明らかになる新技術や新品種の情報伝達と実装の迅速化が功を奏して、基腐病発生割合の低下につながった。